

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

西川 博 会長 年度目標
「ロータリーの輪を広げよう」

例会場 名古屋クレストンホテル

TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

プログラム・クラブ会報広報委員長 矢野雄嗣



創立 1995年3月9日
承認 1995年3月28日
会長 西川 博
幹事 加藤 久明

事務局 名古屋市中区栄3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Mail rc.nagoya-marunouchi@waltz.ocn.ne.jp

HP <http://www.nagoya-marunouchi-rc.org/>

第873回 例会No. 12 平成 25年9月26日(木) 晴

ガバナー公式訪問/名古屋みなとRC 合同例会

■ ロータリーソング	「それでこそロータリー」	
■ 出席報告	会員43名中28名出席	
■ 出席率	71.79%	出席計算人数39名
■ 修正出席率	9月12日	94.87%
■ スピーカー	ガバナー 田中正規さん	
■ ゲスト	地区幹事 榊原勝俊さん	

会長挨拶



皆さん、こんにちは。暦では秋分の日は過ぎましたが日中はまだまだ暑い日が続いています。

本日は、国際ロータリー第2760地区・田中正規ガバナー、榊原勝俊地区幹事をお迎えし、名古屋みなとRCと名古屋丸の内RCとの合同例会を開催させていただきます。田中ガバナー、榊原地区幹事、ようこそお越しくださいました、心よりご歓迎申し上げます。

例会に先立って、田中ガバナー、榊原地区幹事と名古屋みなと・名古屋丸の内両RCの会長・幹事が出席しまして、事前懇談会を開催いたしました。

懇談会ではガバナーから、2014年6月1日～4日のシドニー国際大会の参加、そして6月1日の田中ガバナーを囲む夕食会「2760地区ガバナーナイト」に皆さん大勢参加ください、特に若い方の参加を願いますとのご案内がありました。又、国際大会の出席者には退会者はいないというジンクスがあるとのことでした。

次にロン・バートンRI会長の財団の寄付を呼びかけた「ファースト・クラス・イニシアチブ」は日本では2760地区のみの達成、クラブ会長にファーストクラスバッジが贈られたのは2760地区のみ、ということでお礼の言葉がありました。

また、11月2・3・4日に久屋広場で開催の WFFF「ワールド・フーズ・ふれ愛・フェスタ」についても、皆さんに広くロータリーを知ってもらう機会であるので、特に若者に参加してほしいとの要請がありました。

そして、両クラブ会長、幹事からはクラブの現状と本年度の活動方針、そして事業計画の進捗状況などをお話申し上げました。活発なやり取りの中にも、田中ガバナーの魅力あるお人柄のお陰で、大変和やかな雰囲気でお話させていただくことができました。

まだ他にいろいろな話がありましたので別の機会にお話をしたいと思います。

さて、今年度、名古屋みなとRCと名古屋丸の内RCの名古屋中央ローターアクトクラブ共同提唱の認可がこの9月17日に承認されました。いよいよ丸の内RCも支援がスタートします。9月は青少年のための月間です。ちょうどその時に丸の内RCがみなとRCと共同提唱に運びとなったことは誠に喜ばしいことと思います。そこでこの経緯について少し説明いたします。

昨年度のみなとクラブの梅田会長よりガバナー公式訪問合同例会の会長挨拶において「丸の内RCの皆さまにも是非とも、一緒にRAC・新世代の育成に支援することができればと思っています」との要請がありました。

その後正式に両クラブの梅田直前会長、藤田直前会長からローターアクト提唱要請がありましたが、提唱解消後長年たっていますので、ローターアクトについていろいろ会員の皆さんに理解いただけるように

7月11日例会にて

地区RAC 委員長 寺本善雄様

名古屋みなとRC 会長 岩佐信機様

名古屋中央RAC会長 深谷元さん、直前会長 鏡味純弥さん にご出席いただいて ローターアクトについて卓話をいただきました。

そして、8月1日 丸の内RC理事会にて名古屋中央RAC 共同提唱の件が 承認されました。

9月7日例会にて名古屋中央ローターアクトクラブ深谷元会長に「支援金10万円贈呈」、

10月9日名古屋中央ローターアクトクラブの「名称変更披露会」～名古屋マリオットアソシアホテル【アゼリア】～開催 という経過、予定です。

みなとRCの皆さまと、一緒にRAC・新世代の育成に支援することができればと思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。

後程、田中ガバナーのご挨拶と卓話をいただきます。ご静聴をお願いして会長挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

ニコBOX

田中正規ガバナー、榊原勝俊地区幹事

公式訪問に参りました。宜しくお願いします。

●本日は「ガバナー公式訪問」です。ガバナー田中正規様、地区幹事 榊原勝俊様、今日は宜しくご指導のほどお願い申し上げます。名古屋みなと RC の皆さん、宜しくお願い致します。

川原G補佐、西川会長、藤田、若原、森田、立石、松尾、堀江、永井、水野、岩田、後藤、吉田、大附、亀井、高山、成田、大岩、和田、磯部、長谷川、岡田(敬称略)

本日合計 55,000円

ガバナー ご紹介

名古屋みなと RC 会長 岩佐信機

生年月日 1948年7月25日

所属クラブ 西尾ロータリークラブ

職業分類 病院

勤務先・役職(医法) 西尾病院 理事長

所在地 〒445-0824 西尾市和泉町 22



ロータリー歴

1991年4月	西尾ロータリークラブ入会
2000~2001年	第43代クラブ幹事
2007~2008年	第50代クラブ会長
2002~2005年	地区財団奨学委員会 委員
2005~2006年	地区財団奨学委員会 副委員長
2010~2011年	西三河分区I.M.実行委員長
2011~2012年	ガバナーノミニ
2012~2013年	ガバナーエレクト

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー/ベネファクター/米山功労者/米山功労法人

ガバナー 講話

RI 第 2760 地区ガバナー 田中正規



ロータリーの歴史からお話しさせていただきます。

ポール・ハリスさんという弁護士が、真の友人が欲しいということで、鉱山技師のガスターバス・ローアさん、石炭商のシルベスター・シールさん、洋服仕立業のハイラム・ショーレーさんと4名が集まったのがロータリーの始まりです。シカゴ・ディアボン街のユニティビル7階 11号室で最初に会合を開いた1905年2月23日が、シカゴRCの創立の日であり、ロータリーの創立の日となっています。

創立当時のロータリーは、親睦の社交クラブでした。しかし、仲間を増やそうとした時に、「あなたたちのような自分勝手に他に奉仕しないクラブには入らない」という声を聞き、奉仕活動に取り組み始めました。最初の社会奉仕は、1909年、シカゴ市内に公衆トイレを作ることでした。

そして1917年にはアーチ・C・クラフ会長が「世界で良いことをするために」と基金の設置を提案しました。それが後に国際ロータリーを支えるロータリー財団となります。

1919年、第1回国際協議会がシカゴで始まり、その年、フィリピンのマニラRCがアジアで初めてロータリーに加入しました。その3年後、1921年に東京RCが加盟承認されました。翌1922年9月1日、関東大震災が発生し、10万人を超える死傷者が出ましたが、その時世界中のロータリアンから贈られた多額の寄付に、東京のロータリアンはびっくりしました。日本のロータリアンが世界的ネットワークを持つロータリーの力を知り、団体としての人道奉仕活動に目覚めた瞬間でした。I serveかWeserveかという議論はもはや不毛です。1940年、太平洋戦争で日本のロータリーは脱退しました。

1943年には、ハーバート・テラーさんが作成した「四つのテスト」を、国際ロータリーが正式に採択しました。「四つのテスト」は世界で最も広く印刷されている職業倫理の声明です。

戦争が終わった1945年、49名のロータリアンが国連憲章の起草に貢献しました。国際ロータリーは国連憲章採択会議でアドバイザーの地位を認められ、国連設立当初からのロータリーの支援は、後に国連各機関との協力関係に発展しました。

1946年、日本のロータリーの創始者で東京RCを作った米山梅吉さんが亡くなり、翌1947年には、ポール・ハリスさんが亡くなっています。

1949年、日本のロータリーは再承認されました。1950年、米国ミシガン州デトロイトで開催されたRI国際大会で2つの標語が正式に承認されました。「Service above self (超我の奉仕)」と「He Profits Most Who Serves Best (最も良く奉仕する者、最も多く報いられる)」です。奉仕という言葉はロータリーでは非常に良く使われていますが、日本人の奉仕のニュアンスはアメリカ人とは少し違います。米国では奉仕をしなければ人から認められないというくらい、奉仕活動はステータスになっているそうです。

1952年、東京RCが米山梅吉さんの偉業を称えて奨学事業の構想を立案しました。1957年、東京RC単独で始まった奨学事業が、日本全国の共同事業となっています。この年、ロータリー財団が財団プログラムの寄付者に対してポール・ハリス・フェローをはじめとする認証プログラムを設置しました。

そして1967年には、文部省管轄下の財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されております。

私は本年1月15日から19日まで米国カリフォルニア州サンディエゴの国際協議会に夫婦で出席し、2013-14年度のRI会長ロン・バートンさんはテーマを「En

「gage RotaryChangeLives」とされました。日本語訳は「ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を」です。私は、ロータリーに積極的に参加して自分と周りを磨き上げ、輝かしい人生に変えていこう、という意味だと理解しています。

ロン・バートンさんは古くから、RIの戦略計画「ロータリー財団の未来の夢計画」に中心に関わって来ました。これはロータリーを方向づける重要な計画です。異なる国や地域におけるロータリーの状況を調べ、各地域の強み、改善点、課題を決定しました。その中で重要な計画が、「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」です。より充実したプロジェクトを実施すると、より大きな影響が起これ、会員と支援者の増加につながり、支援の拡大となります。それが公共イメージの向上となり、寄付が増加し、クラブの強化になります。そしてまた、より充実したプロジェクトやクラブの活性化につながっていくという訳です。



「クラブのサポートと強化」というのは、クラブの刷新性と柔軟性を育てることです。様々な奉仕活動に参加することが、自分たちの会員意識を向上することになります。また、会員それぞれの色んな特殊な才能を持った多様性を増進することです。それから、会員の勧誘・維持を改善すること、優秀な会員を1人でも多く集めることです。5年先 10 年先にどういったクラブにしたいかという戦略計画を今から立てる必要があります。その中心となるのはやはりリーダーを育てることです。

「人道的奉仕の重点化と増加」で、RIが一番重点を置いているのがポリオ撲滅です。インドでは撲滅したと言われておりますが、まだ世界中にはアフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアなどに残っています。ポリオの厄介なところは、感染しても9割は発症しませんが、その9割の人がまた人に感染させることです。日本でもまだワクチンを接種しています。ワクチンはずっと続ける必要があります。

11月2日～4日には久屋大通公園で、ポリオ撲滅運動「End PolioNow」の大キャンペーンとして、ロータリアンやロータリアン以外の人を集めて、「ワールドフード・ふれ愛フェスタ」を開催します。それに参加すると、ロータリーのチャリティってこういうものかと分かると思います。全くロータリーを知らない人に「あ、ロータリーってポリオの撲滅をやっているんだな」と分かってもらうだけでもしたものだと思います。これには色々な設備や準備が

要りますから、各クラブの会員には、口と手と足とお金を出して頂ければありがたいと思います。

「公共イメージと認知度の向上」は、ロータリーのイメージとブランド認知を調和させることです。また、行動を主体とした奉仕を推進し、中核となる価値観を推進することです。奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ。この5つの価値観が、皆さんの持っている底力です。これが他の団体と違うところで、それが根となり、その上にクラブ奉仕、職業奉仕が幹となり、国際奉仕、社会奉仕、青少年奉仕という実や花となる訳です。

人から「ロータリーって何ですか？」と聞かれた時に、ポツと直ちに2つ3つ答えられるように、自分たちが何であるかをもう一度再認識する必要があると思います。それには「ロータリーのルーツを伝える」、「ロータリーのユニークさを伝える」、「ロータリーのメッセージを伝える」、そして「ロータリアンやクラブの意欲を強めること」です。久屋大通公園で開催する「ワールドフード・ふれ愛フェスタ」はその一つの大きなチャンスです。こういうチャリティは日本で初めてです。最初にやることに価値があります。RI会長の強調事項は、「会員の増強」「ロータリー財団を通じた人道的奉仕の充実」「ロータリーファミリーを通じたネットワークの充実」であり、これを達成するとRI会長賞が頂けると言われます。

6つの重点項目は、①平和と紛争予防／紛争解決②疾病予防と治療③水と衛生設備④母子の健康⑤基本的教育と識字率向上⑥経済と地域社会の発展です。この中の奉仕をすると、グローバル補助金が下がります。地区補助金を使うのはどこでも当たり前になっていますが、もう少し大きなことを行うためにはグローバル補助金が効果的です。大変ですが、どうかチャレンジして下さい。

それを踏まえて地区の方針は、「会員の意識向上」「クラブのパワーアップ」「地区の改革」「会員増強」としました。「会員の意識向上」は、例会に出席することから始まります。例会に出席して、地区大会、国際大会に出席して下さい。来年6月はオーストラリア・シドニーで国際大会が開かれます。6月1日に私どもが主催するガバナーナイトに1人でも多くご参加下さることを夢見ております。「クラブのパワーアップ」は、色々な奉仕をし会員の意識を向上することで、そこに会員が集まり、会員増強につながります。



「地区の改革」は、多くの委員会を整理し委員の任期を定め、人数を大幅に減らしましたが、まだ仕事半ばです。

次年度もこれを引き継ぐと思います。

「会員増強」は永遠のテーマです。毎年平均年齢は1歳ずつ上がっていきます。絶えず新しい人を補強する必要があります。それには、会長や役員、増強委員長だけに頼らず、各会員に「自分たちが会員を見つけるんだ」と思ってもらくことです。

2760 地区のキャッチフレーズは、「磨いて輝こう」です。自分がやることで周りが良くなり、ひいては周りから自分たちも恩恵を受けます。ロン・バートンさんの「Engage Rotary Change Lives」と同じ意味のつもりで私は言っ

ています。

ロン・バートンさんと会った時に、「Engage Rotary Change Lives」のことを聞いたら、「アーサー・シェルドンの第2標語「He Profits Most Who Serves Best」と全く同じ意味だよ」と答えてくれました。ロータリーは変わっていないんです。しっかり一人ひとりの会員が奉仕をすることによって、自分たちも幸せになるし、クラブも世界も幸せになるということです。

どうかこの1年間しっかり磨いて輝いて下さい。



米山記念奨学会の誕生(ロータリー米山記念奨学会 HP より抜粋)

9万人のロータリアンが支援

米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリークラブで始められたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省(現在の文部科学省)の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

奉仕の人「米山梅吉」

米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏(1868-1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長 泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)ウエスレアン大学(オハイオ州)シラ キュース大学(ニューヨーク州)で8年間の苦学の留学生活を送りました。帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立し

て、新分野を開拓し、その目的を“社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー(Philanthropy*)の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◎10月3日(木)第 874 回例会「クラブフォーラム」

米山月間に因んで 米山奨学生 全培糊さん研究報告

◎10月10日(木)第 873 回例会

外部卓話 元航空救難団飛行軍司令 木戸文夫 様

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆